

2023年3月期 第2四半期

決算補足説明資料

2022年 11月 11日

三櫻工業株式会社

(証券コード：6584 東証プライム)

2023年3月期 第2四半期 連結損益状況

2023年3月期 第2四半期 セグメント別実績

2023年3月期 第2四半期 営業外及び特別損益等

2023年3月期 第2四半期 営業利益分析

2023年3月期 第2四半期 連結財務状況：対前期末

2023年3月期 第2四半期 連結キャッシュ・フローの状況

2023年3月期 第2四半期 連結損益状況



	2022年3月期 第2四半期 実績		2023年3月期 第2四半期 実績				2023年3月期 通期予想	
	金額 (百万円)	売上高比 (%)	金額 (百万円)	売上高比 (%)	対前年同期		金額 (百万円)	進捗率 (%)
					増減額 (百万円)	増減率 (%)		
売上高	58,119	100.0	63,599	100.0	+5,480	+ 9.4	128,000	49.7
営業利益	3,416	+ 5.9	▲910	▲ 1.4	▲4,325	-	2,500	-
経常利益	3,679	+ 6.3	▲411	▲ 0.6	▲4,090	-	2,400	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	3,226	+ 5.6	▲1,746	▲ 2.7	▲4,972	-	1,000	-

● 2023年3月期 第2四半期 業績概要（対前年同期比）

● 為替レート

- 売上高：半導体不足等によるサプライチェーンの混乱及び上海ロックダウンによる生産減を円安による換算レート影響が補い増収。
- 営業利益：為替影響を除く実質売上減に伴う減益に加え材料費、物流コスト及び人件費高騰に対し価格転嫁が遅れたことによる営業損失。
- 経常利益：営業損失の拡大による経常損失。
- 純利益：営業損失の拡大に加え、損害賠償損失引当の計上による純損失。

損益換算レート (単位：円)	2022年3月期 第2四半期 平均レート	2023年3月期 第2四半期 平均レート	変動率
ドル	107.7	122.9	+14%
ユーロ	129.8	134.3	+3%
メキシコペソ	5.3	6.1	+14%
人民元	16.7	18.9	+14%
インドルピー	1.5	1.7	+15%
タイバーツ	3.5	3.7	+4%
ロシアルーブル	1.5	1.7	+17%
ブラジルリアル	20.0	24.3	+21%

2023年3月期 第2四半期 セグメント別実績

	売上高			営業利益		
	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	対前年同期 増減	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	対前年同期 増減
	実績 (百万円)	実績 (百万円)	実績 (百万円)	実績 (百万円)	実績 (百万円)	実績 (百万円)
日本	20,817	21,466	+648	1,057	228	▲829
北南米	16,305	18,989	+2,685	188	▲2,172	▲2,360
欧州	11,333	11,357	+24	526	▲140	▲666
中国	9,890	9,177	▲712	755	209	▲546
アジア	9,485	12,357	+2,872	1,003	943	▲60
連結調整	▲9,711	▲9,747	▲37	▲113	23	+135
合計	58,119	63,599	+5,480	3,416	▲910	▲4,325

● 2023年3月期 第2四半期の地域別業績のトピックス （対前年同期比）

- 日本【増収・減益】 売上は生産量自体は前期と同水準となるも海外売上に対する為替影響を受けて増収。利益面は材料費高騰の価格転嫁が進まず、経済活動の正常化に合わせた活動再開で固定費が増加し減益。
- 北南米【増収・営業赤字】 北米における半導体不足に伴う客先の減産に伴い、円安による換算レートの影響を除いた実質売上は減収。利益面は実質的な減収に加え物流網の混乱、輸送費の高騰、材料費を含むインフレ、人手不足を背景とする人件費の上昇などの急激なコスト上昇に対する価格転嫁の遅延等により、前期下期からの営業赤字が拡大。
- 欧州【増収・営業赤字】 半導体供給不足、ロシア・ウクライナ問題によるサプライチェーンの混乱に伴い、実質減収。利益面も実質減収に伴う減益に加え、樹脂材料費の高騰、インフレ及び人材確保難を背景とする人件費の上昇、採用活動費等により固定費が増加し、営業損失。
- 中国【減収・減益】 売上はゼロコロナ政策に伴う上海でのロックダウンによる4月及び5月の大幅な生産減影響を受け、減少。利益面も円安による材料為替差益に加え人件費抑制等によるコスト削減を図るも、生産量急減に伴う減益影響が大きく、減益。
- アジア【増収・減益】 円安による換算レートの影響に加え、新型コロナウイルス感染症に対する制限緩和を受けての生産挽回による増産により増収。利益面は増収に伴う付加価値増を人件費等の固定費増加が圧迫し、減益。

2023年3月期 第2四半期 営業外及び特別損益等

(増減額の符号は対利益符号)

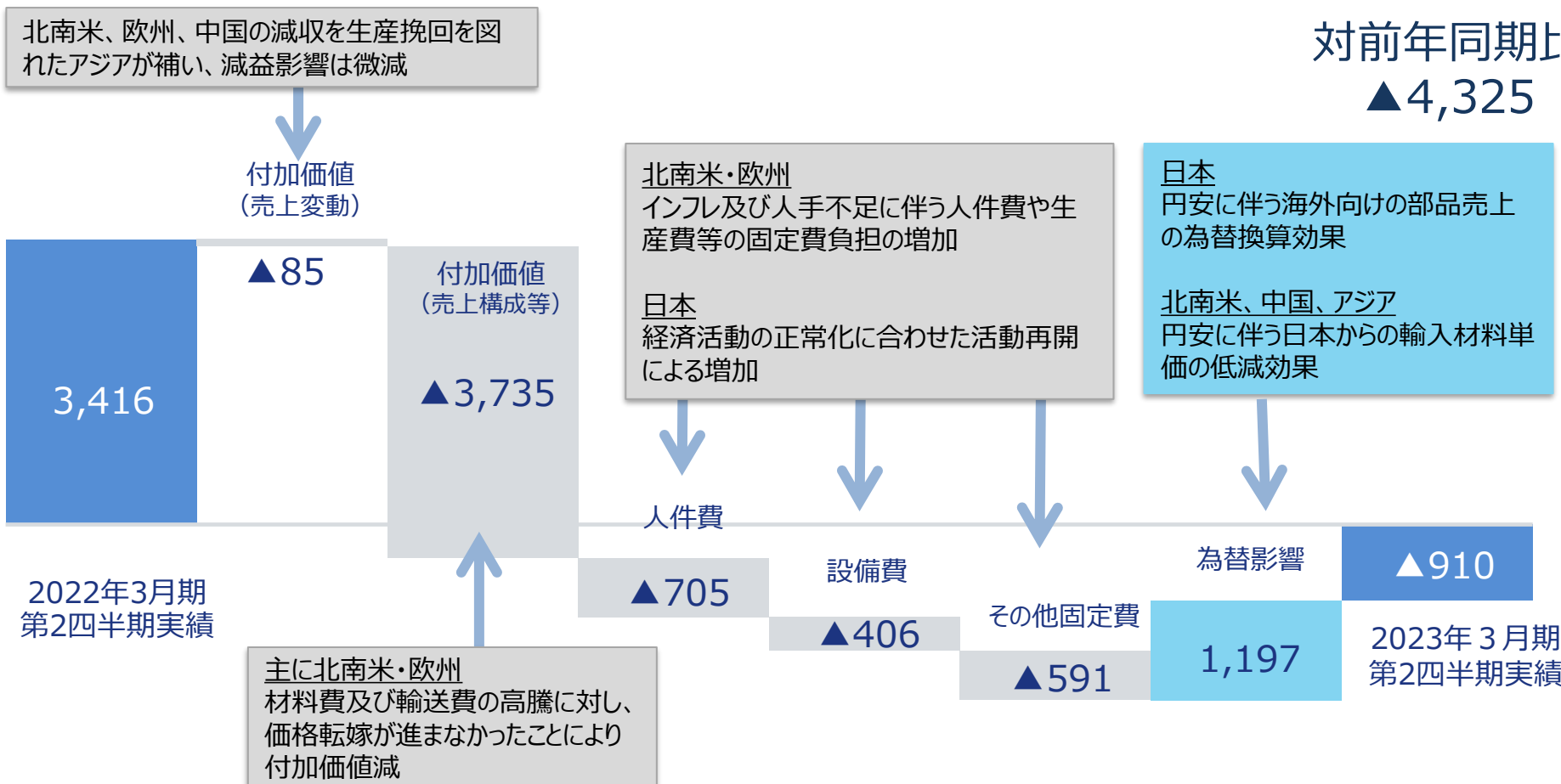
連 結		2022年3月期 第2四半期 実績	2023年3月期 第2四半期 実績		主な増減要因 (金額は百万円)	
		金額 (百万円)	金額 (百万円)	対前年同期		
				増減額 (百万円)		増減率 (%)
営業利益		3,416	▲910	▲ 4,325	－	
営業外 損益	営業外収益	533	944	+ 412	為替差益の増加 +318	
	営業外費用	269	446	▲ 176	支払利息の増加 ▲234	
経常利益		3,679	▲411	▲ 4,090	－	
特別利益		757	21	▲ 735	製品保証引当金戻入額 (前期 +699、当期 発生なし)	
特別損失		17	308	▲ 292	損害賠償損失引当金繰入額 ▲272 (前期 発生なし、当期 ▲272)	
税引前四半期純利益		4,419	▲698	▲ 5,117	－	
法人税等		881	787	+ 94		
非支配株主利益		312	262	+ 50		
親会社株主に帰属する 四半期純利益		3,226	▲1,746	▲ 4,972	－	

2023年3月期 第2四半期 営業利益分析

半導体供給及びサプライチェーンの問題による減収に加え、材料費や輸送費の高騰、インフレ及び人材確保難を背景とする人件費等の固定費負担の増加により、営業損失が拡大。

(単位：百万円)

対前年同期比
▲4,325



注：付加価値（売上変動）＝連結全体の売上増減（為替補正後）×前期付加価値率（為替補正後）

2023年3月期 第2四半期 連結財務状況：対前期末

連 結		2022年3月期末		2023年3月期 第2四半期		
		実績 (百万円)	構成比 (%)	金 額 (百万円)	構成比 (%)	対前期末増減額 (百万円)
	流動資産	53,485	55.5	59,453	57.5	+ 5,967
	固定資産	42,952	44.5	43,976	42.5	+ 1,025
	資産合計	96,437	100.0	103,429	100.0	+ 6,992
	流動負債	36,863	38.2	44,247	42.8	+ 7,383
	固定負債	17,891	18.6	17,551	17.0	▲ 339
	負債合計	54,754	56.8	61,798	59.7	+ 7,044
	純資産合計	41,682	43.2	41,631	40.3	▲ 52
負債純資産合計		96,437	100.0	103,429	100.0	+ 6,992

総資産 : +6,992 増加

- ① 営業債権 +1,693
- ② 棚卸資産 +2,901
- ③ 有形固定資産 +2,160
- ④ その他投資有価証券 ▲1,508

負債総額 : +7,044 増加

- ⑤ 営業債務 +703
- ⑥ 短期借入金 +2,997
- ⑦ 未払金 +616
- ⑧ 流動負債その他 +2,563
- ⑨ 長期借入金 ▲1,085
- ⑩ 損害賠償損失引当金 +272

純資産 : ▲52 減少

- ⑪ 利益剰余金 ▲2,201
- ⑫ 有価証券評価差額金 ▲1,066
- ⑬ 為替換算調整勘定 +3,341

(注 1) D/E レシオ・・・前期末 0.74 → 当期末 0.80

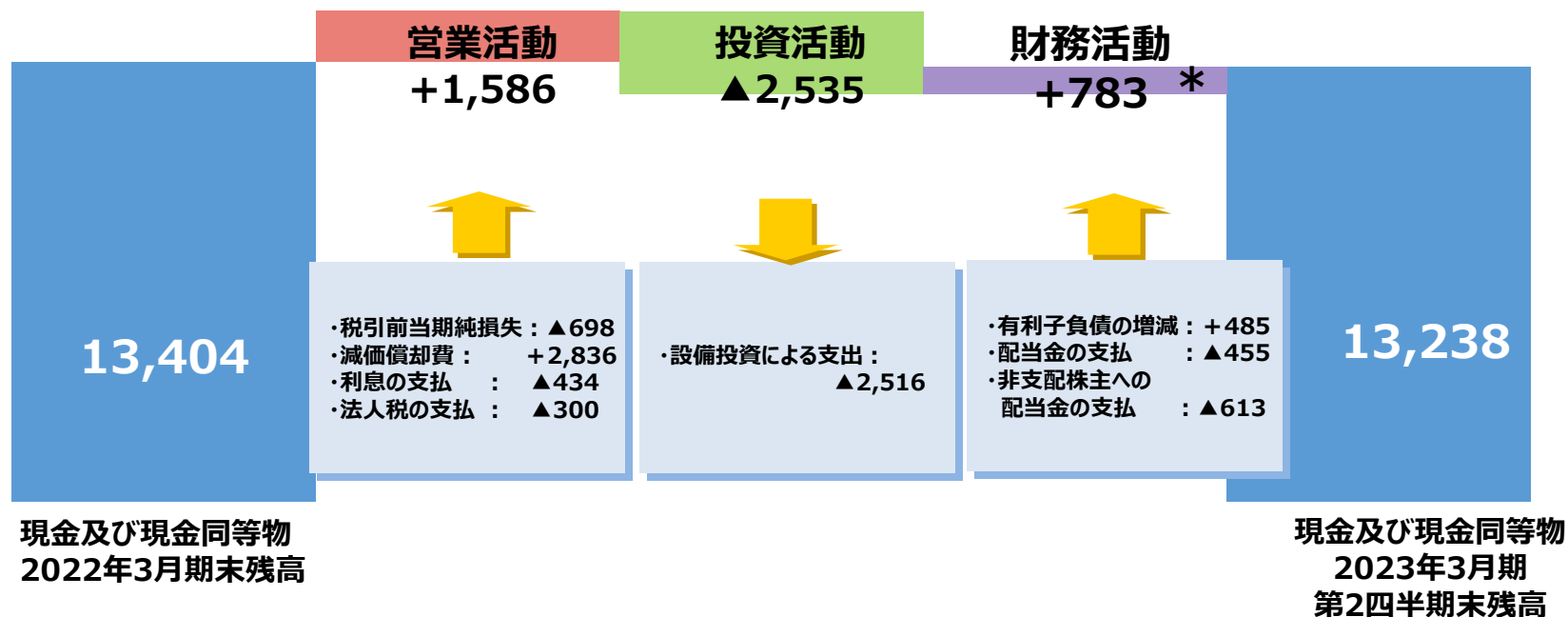
(注 2) 自己資本比率・・・前期末 40.1 → 当期末 37.3

	前期末	当期末
①有利子負債	28,677	30,707
②自己資本	38,643	38,576
①／②	0.74	0.80

2023年3月期 第2四半期 連結キャッシュ・フローの状況

● 2023年3月期 第2四半期 連結キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)



* 現金及び現金同等物に係る換算差額（+1,413百万円）を財務活動に含めております。

● 設備投資/減価償却の状況

(単位：百万円)

	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	
		実績	対前年同期
設備投資額	2,407	2,516	+ 108
減価償却費	2,468	2,836	+ 368

このプレゼンテーションで述べられている三櫻工業株式会社の業績予想、計画、事業展開等に関しましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき判断したものです。

マクロ経済や当社の関連する業界の動向、新たな技術の進展等によっては、大きく変化する可能性があります。

従いまして、実際の業績等が本プレゼンテーションと異なるリスクや不確実性がありますことをご了承下さい。また、大きな変更がある場合は、その都度発表していく所存です。